

ごあいさつ

持続可能な社会、産業の基盤づくりを急ぐべき時。
新しいソディックグループの創造に向けて、
大きな一歩を踏み出していきます。

まず、新型コロナウイルス感染症によって亡くなられた方に心からお悔やみを申し上げますとともに、罹患された方々には、心よりお見舞いを申し上げます。また、ひっ迫する医療現場や保健所に従事されている方々に感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大により世界の経済、社会は深刻なダメージを受けており、グローバルで事業を展開するソディックグループも例外ではなく、事業活動に多大な影響を被りました。しかしながら、私はこのコロナ禍は世界の産業が次世代に向けたシフトを加速する契機となったのではないかと感じています。

経済のグローバル化とともに地球環境や資源の問題、経済や社会の格差の問題はより複雑化、深刻化し、もはや一国、一経済圏の取り組みでは解決できないレベルに達しています。全ての国の人々がより持続可能な社会、経済、産業の基盤づくりに真剣に取り組まなければ、私たちが未来を明るく見通せる日はやってこないでしょう。ソディックグループは今こそ、培ってきた技術力、開発力を最大限に発揮し、私たちのお客様が時代の転換期のなかで、持続可能な未来を描くための新たな技術とTotal Manufacturing Solutionを提供しなければなりません。そして、それを行うには、私たち自身が新しいソディックの創造を急がねばなりません。先の見えない時代のなかでも進むべき道は見えています。ステークホルダーの皆様とともに、新しいソディックグループへの第一歩を今、踏み出したと思います。

代表取締役社長

古川 健一

ソディックの原点

世の中にはないものは
自分たちで創る

ソディックは、創業以来一貫してお客様の「ものづくり」に貢献することを理念に研究開発を続けています。その理念を支えているのが「世の中にはないものは自分たちで創る」という開発精神です。お客様のあらゆるご要望に耳を傾け、どんなに困難な技術課題にも挑戦して克服し、お客様とともに問題を解決していきます。その過程で必要なものがこの世になければ、自ら創り、開発して解決してきました。この精神は、現在もソディックの企業全体に受け継がれています。

社是

「創造」「実行」「苦勞・克服」

So

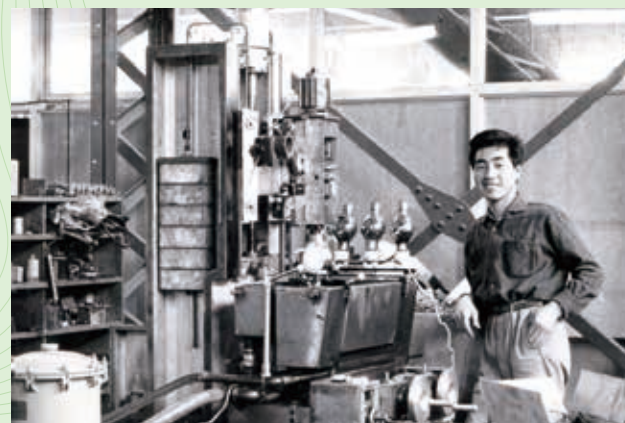
di

ck

Technology

テクノロジーで歩む
ソディック放電加工機から始まった
ソディックの歩みは、
技術革新の歴史そのもの

日本製品の品質は世界の市場で評価されてきましたが、その背景には、ものづくりのためのマザーマシンである工作機械の技術革新があります。放電加工機に革命をもたらした「NC装置」「リニアモータ」「セラミックス」、射出成形機の「V-LINE®方式」などは、いずれもお客様の問題解決のためにソディックが自ら開発したものです。ソディックの技術の歩みは、産業界の技術革新の歴史そのものであり、今では、世界各地の先端的なものづくりを支えています。



1976年設立時の創業者 古川利彦

経済産業省認定 2020年版
「グローバルニッチ
トップ企業100選」に認定



コアテクノロジー

世界最高水準の
ものづくりを実現する
コアテクノロジーを自社開発

ソディックは、あらゆる製品に欠かせない“ものづくりツール”「金型」加工機の精度、速度の向上と多機能化を実現するコアテクノロジー、「NC装置」「セラミックス」「リニアモータ」「モーションコントローラ」「放電電源装置」「V-LINE®方式」「直圧型締機構」「ハイブリッド方式」を確立しました。その世界最高水準の機械装置の基本技術をベースに新たな要素技術を次々と開発し、世界のものづくりを牽引する新分野へ挑戦を続けています。



放電電源装置



NC装置



セラミックス



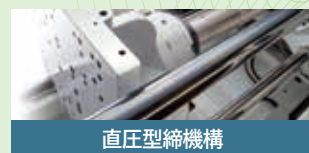
リニアモータ



モーションコントローラ



V-LINE®



直圧型締機構



ハイブリッド方式

ソディックの価値創造プロセス

ソディックは、独自の開発精神の下、お客様の声に真摯に耳を傾けることで、自らの強みである「研究開発」「グローバル展開力」「Total Manufacturing Solution」を培ってきました。世界のものづくりを支えるバリューチェーンでお客様と社会のイノベーションを促進し、ものづくりを通じて持続可能な社会に貢献することをめざしています。

原点・価値観

世の中には
自分たちで
創る

ソディックの
強み

グローバル
生産体制・
サポート
ネットワーク

独創性・
コアテクノロジー・
研究開発力

Total
Manufacturing
Solution

工作機械

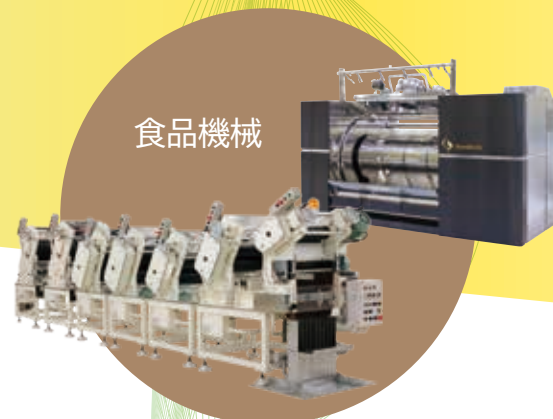


産業機械

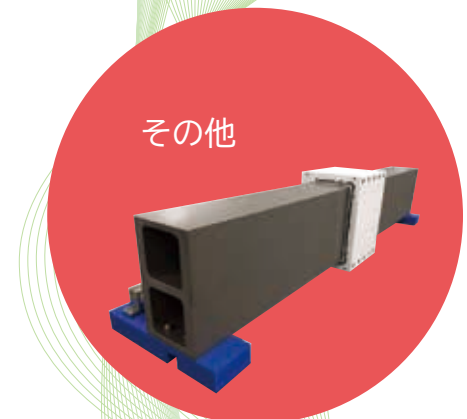


世界のものづくりを支える
ソディックのバリューチェーン

食品機械



その他



長期経営計画

Next Stage 2026

～ Toward Further Growth ～

- ▶ 既存事業の競争力を高め、成長を牽引する製品群を育成し、事業規模拡大
- ▶ ポートフォリオを変革し、安定した収益基盤を構築

お客様と社会の
イノベーションを促進

2026年12月期 定量目標

売上高 1,250億円

営業利益 170億円

持続的成長を推進するための
経営基盤強化

コーポレート・ガバナンス

働き方改革

組織改革

IT

5G

めざす姿

ものづくり
を通じて
持続可能な
社会に貢献

SDGsへの貢献



環境

CASE

MaaS

食

医療

「世の中にない価値を創り続ける」 ソディックの研究開発

ソディックの製品は、世界の産業のイノベーションはもとより、生産性向上や環境保全、ものづくり現場改革などさまざまな社会価値を生み出してきました。ソディックの研究開発部門では質の高い人材と独自の開発プロセスによって、その使命を果たし、多様かつ困難な開発要件を満たしたオンリーワンの製品を生み出し続けています。

5軸同時制御を可能にした、
NCワイヤ放電加工機「330W」



技術の壁をいくつも乗り越え、 ものづくりの現場が求める価値を提供

今では“ものづくり”の現場で常識となった「NC 放電加工機」「リニアモータ駆動放電加工機」はソディックが開発したものです。1960年代、放電加工は金型製作の技術として導入され始めましたが、加工に時間がかかる、仕上がりが粗い、電極の消耗が激しい、加工者の負担が大きなど多くの課題を抱えていました。ソディックの創業者古川利彦は、1965年に電極無消耗回路を発明。その後も、高精度の加工を実現するローラン技術、加工時間や作業負荷の課題を劇的に解決するNC装置を次々と開発し、1976年、世界初のマイクロ・コンピュータ付NC形彫り放電加工機を生み出し、ソディックを設立しました。

1970～80年代は“Japan as Number One”といわれるほど日本企業が次々と画期的な新製品を開発し、自動車や家電などの“Made in Japan”製品は世界の市場で高い競争力を誇りました。その性能と品質を支えたのが高硬度材で複雑形状な金型を精密につくることができる放電加工機です。ソディックは、リーディングカンパニーとして、精度、コスト、納期、複雑さなど多くの壁を乗り越える技術革新を進めていきました。

産業と社会が求めるイノベーションの担い手 として、次世代のものづくりを創造

1990年代に入ると、産業のグローバル化が急速に進み、中国、韓国をはじめ新興国のものづくり企業が躍進してきました。射出成形機、マシニングセンタ、リニアモータなど、それまでの常識を覆す技術を次々と自社開発していたソディックは、世界のものづくりを支えるまでに成長しました。また、地球温暖化防止への関心が高まると、ものづくりの環境負荷削減の担い手としての役割も大きくなり、使用済みワイヤ電極の高品質リサイクルシステムを世界で初めて確立。さらに第4次産業革命といわれる時代の到来では、業界に先立って人工知能による開発を推進し、ITやデジタル技術を活用した自動化・省力化を実現し、企業の収益改善、人手不足の課題解決に貢献しています。そして2014年、全自動加工を実現する金属3Dプリンタ「OPM250L」の開発によって成形サイクルの革命的な短縮が可能になりました。

超ハイサイクル、超小型、
超安定射出成形機「HCO3VRE」

2014年に開発した
金属3Dプリンタ「OPM250L」

日刊工業新聞社主催
57回十大新製品賞 本賞
第45回機械工業デザイン賞 日本力賞
2015年グッドデザイン賞

常に世界のトップをめざす開発者の育成

アドバンスト研究センターでは、経験を伴った成長を目標に事業横断的な人材育成を行っています。新人教育ではNCスクール、実装技術トレーニング・現場研修、AIエンジニア育成などソディックのコア技術の知識基盤を確立します。その後はエキスパート職に向け、他社・自社汎用スキル、部門独自スキルの専門教育の研修カリキュラム、勉強会等を設けています。社員個々人の経験に応じた学びができるよう、研修の機会は若手から管理職まで開かれています。

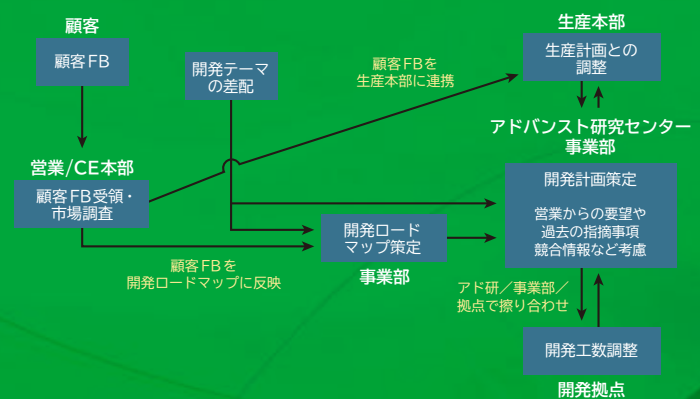
アドバンスト研究センターにおける教育施策

階層	他社汎用スキル	ソディック汎用スキル	部門独自スキル	OJT
管理職	安全管理・貿易管理講習会	環境活動(OO)教育	金属光造形の知識	各種工作機械・加工ノウハウ習得
指導職	各種金型の設計・製造知識習得 各種展示会見学・勉強会 各種テクニカルセミナー 実装技術セミナー	消防・避難訓練	実装技術トレーニング(入社1年目)	各種CAD/CAM操作・技能習得
担当職	AI_エンジニア育成講座	NCスクール(入社1年目)	実装ライン現場教育(入社1年目)	設計レクチャー 「コーン」

お客様からのフィードバックを開発ロードマップに反映

ソディックでは、関連部門が出席する営業会議、品質保証会議でお客様からのニーズを全社で共有し、開発テーマの選定を行っています。お客様から要求される性能や機能を実際に実現するにはどのような技術が必要か、開発テーマの差配を行い、製品開発のロードマップを策定しています。生産本部、営業本部、事業部、アドバンスト研究センター、開発拠点が一体となって計画に落とし込み、予算とともに承認する仕組みとなっています。

新製品開発テーマとロードマップ



世界3極に広がるグローバル開発体制

ソディックでは、早くからグローバルな視点に立って各エリアの特性を見据えた研究開発を推進しています。本社および加賀事業所では、研究開発の中心拠点として10年先を見据えたロードマップを策定しています。2000年に設立した米国シリコンバレーの研究所では、先端ITの集積地ならではの最先端テクノロジーをキャッチしながらIoTプラットフォームや先端制御技術を利用したキーコンポーネンツを開発し、1991年設立の中国上海の研究所では、ヒューマンインターフェイスを中心としたソフトウェアを開発しています。

ソディックが推進する3極体制での開発



ものづくりを通じて 持続可能な社会に貢献

放電加工機のパイオニアとして世界のものづくりを支えるソディックでは、ものづくりを通じて持続可能な社会に貢献することをめざしています。資源、エネルギーを有効に活用しながら、お客様と社会のイノベーションを促進するため、製品の環境性能の向上を図っています。

工作機械分野

機械の性能向上と同時に省エネ、省資源を実現。 お客様の環境負荷削減をソディックが支援

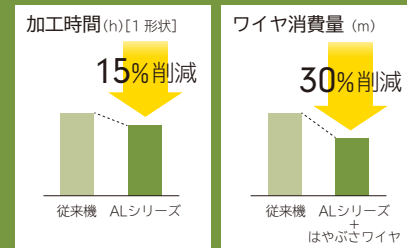
製品の製造工程で使われる機械の性能は、ものづくりにおける環境負荷に大きな影響を及ぼします。例えば、電源の場合、加工速度の向上により加工時間の短縮が図られ、消費電力や消耗品の使用量を抑えることができます。機械も同様に加工精度が向上すれば工程、時間ともに削減が可能です。創業以来、コア技術を次々と自社開発し、お客様に提供する機械の性能を飛躍的に高めてきたソディックは、製品を通じてお客様の環境負荷低減に継続的に貢献してきました。2020年には世界初の「ワイヤ回転機構」を搭載した「AL i Groove Edition」を開発し、加工面の品質向上に加えワイヤ消費量の削減も実現しました。

また、資源の有効活用への取り組みとして、放電加工に欠かせないワイヤ電極線を新品同様の品質にリサイクルする技術を世界で初めて確立。お客様の元で加工後に使用済みとなったワイヤを回収し、溶かして高精度に加工可能なワイヤ電極線に再生しています。



ワイヤ放電加工機
「AL i Groove Edition」

80mm板厚・段差形状嵌合加工の場合



加工材質：SKD11
板厚：20～80mm
加工精度：±2.5μm
面粗さ：Ra0.328μm (Rz 2.463μm)
ワイヤ径：φ0.20mm (はやぶさワイヤ)

バリューチェーンを通じての貢献をめざすSDGsターゲット

SDGs ターゲット	ソディックの活動	SDGs ターゲット	ソディックの活動
1 貧困の撲滅 2 飢餓の撲滅	● 食品の長寿命化、鮮度保持、無菌製造を実現する食品機械の開発により食糧問題に貢献	9 産業・イノベーションの促進	● お客様と社会のイノベーションを促進する技術の開発
7 持続可能なエネルギー	● お客様の省エネに貢献する環境配慮製品の開発推進 ● 事業活動におけるCO ₂ 削減の取り組み、クリーンエネルギーの導入	12 持続可能な消費と生産	● 製品の品質・安全性の向上 ● リユース、リサイクル技術など持続可能なものづくり技術の開発 ● グリーン調達推進
8 持続可能な雇用と経済成長	● 自動化、生産性向上によるモノづくり現場の働きやすさ向上	14 海洋資源の持続可能な利用 15 陸域生態系の持続可能な利用	● 生分解性プラスチックなど再生可能な原材料の実用化促進

産業機械分野

射出成形機の性能向上で資源のムダを削減。 生分解性プラ利用促進に役立つ技術も開発

ソディックのプラスチックや難材料、軽金属向けの射出成形機は、自動車や通信・電気電子機器、医療機器など部品の成形加工に用いられます。射出成形機の技術革新を進めることで、歩留まりを改善し、原材料の無駄な消費を抑えるだけでなく、さまざまな最終製品の小型化、薄肉化、軽量化、高品質化を実現してきました。EVや5Gの普及、デジタルトランスフォーメーション、低侵襲医療[※]などの進展にもソディックの技術が陰ながら貢献しています。

2020年に実用化に成功した「INFILT-V」は、これまで困難だった生分解性プラスチックの薄肉深物の成形加工を容易にする装置です。海洋プラスチックごみなど廃プラスチックによる環境汚染が世界的に問題となるなか、廃棄されても土に還る生分解性プラスチックの利用が望まれましたが、成形加工が困難なため利用が進みませんでした。「INFILT-V」の搭載により精密成形品に適した当社独自のV-LINE[®]射出成形機で生分解性プラスチックが採用できるようになり、普及促進が期待されています。

※手術・検査などに伴う患者さんの痛みや発熱、出血などをできるだけ少なくする医療



「INFILT-V」システム搭載 eV-LINE
電動射出成形機「MS100」



左：標準成形 右：「INFILT-V」使用

食品機械分野



CIP自動洗浄付き茹上装置

特長

- ▶ 高精度な計量機能・格段の精度を実現
- ▶ HACCP推奨のCIP機能で製造現場をサポート
- ▶ 省人化でランニングコストを大幅に低減



麺や米飯の品質向上、ロングライフ技術を通じて食の社会課題解決への貢献をめざす

日本は豊かな食に恵まれています。世界的には食糧不足や飢餓が大きな課題となっています。麺、米は茹でる、炊飯することにより原料1に対して2から3倍の製品に加工できる非常に効率の良い食材です。ソディックは、麺や米飯を連続で安定的に生産できる装置の開発、製造に強みを持っており、技術を通じて食の社会課題解決の一助となることをめざしています。

CIP自動洗浄付き茹上装置はHACCP[※]の観点から25年前に開発したソディックの主力製品です。CIPとは装置内部を自動洗浄するシステムで、茹で・冷却から計量までの工程を完全自動化し、安全・安心な生産を可能にします。工程での生菌数が抑えられ、麺の賞味期限が延ばせる大手製麺メーカーやCVSベンダーに高い評価を得ています。ソディックでは、この装置をはじめ、無菌米飯、菓子・惣菜自動化設備などの技術を通じて世界の食の安全と食文化の向上に寄与していきたいと考えています。

※ HACCP(ハサップ)は、国際的な食品衛生管理規格